

DXHR SEC-AI 研修コースカリキュラム	
研修内容	
コース	ChatGPT for Special Curriculum
対象	業種・職種を横断した業務を行われている方
日程・時間数	2.5時間×5回(合計学習時間：12.5時間)
研修場所	オンライン
受講費用	定価：中小企業(1名から)400,000円(税込)
受講レベル	ChatGPTを業務で使用したことがない、業務で深く活用したことがない
受講日	
学習目標	・ ChatGPTの基本を理解することができる ・ 基本のアクティビティを使用できる ・ 実際の現場業務にあったChatGPTの活用ができる

研修カリキュラム				
回数	時間	レベル	※ ご要望、時間配分、レベル、進捗状況で以下内容をベースとして選択することが可能です。	
1	1.5時間	入門	学習	生成系AIとは ・ ChatGPTの背景と歴史 ・ 他の生成AIとの比較 ・ ChatGPTの仕組み ・ GPT-3.5 アーキテクチャの概要 (4→3.5に変更) ・ トランスフォーマーモデルの理解 ・ 自然言語処理の基本概念 ・ プロンプトエンジニアリングとは
	1時間	入門	学習	倫理とセキュリティ ・ AI倫理に関するガイドライン ・ プライバシーとセキュリティの考慮事項 ・ 生成系AIのリスクと対策
2	1.5時間	基礎	学習	ChatGPT×文書作成 ・ 生成AIを活用したサービスを知る ・ 営業企画や、プレゼン資料の作成方法を学ぶ ・ 報告書や議事録などの文書生成方法を学ぶ ・ メール文章などのコミュニケーションを補完する ・ コピーや記事などの作成を行う
	1時間	基礎	学習	ChatGPT×スプレッドシート ・ ChatGPTとスプレッドシートの連携 ・ スプレッドシートAPIの概要 ・ スプレッドシートへのデータ書き込み・読み込み ・ ChatGPTとスプレッドシートを連携させる実践例 ・ マクロ (GAS) の作成方法
3	2.5時間	応用	学習	ChatGPT Pluginsを学ぶ ・ ChatGPT Pluginsとは ・ どんなPluginがあるか把握する ・ 実際の活用事例を知る ・ ニーズにあったPluginsの検索方法 ・ Link Readerで顧客情報を事前に要約する
4	2.5時間	応用	学習	ChatGPTでのデザイン活用 ・ ブランドロゴデザインを考える ・ Webデザイン／ランディングページへの活用方法 ・ コンテンツ設計とデザイン方針を決める ・ 想定するペルソナやサイト構成を考える ・ 使用する色の候補や、コンテンツのダミーテキストを検討する
5	2.5時間	基礎	学習	デザイン業務への生成AI活用：Adobe Firefly ・ Adobe Fireflyの特徴と使い方 ・ Adobe Fireflyの各種機能の説明 ・ Adobe Fireflyを活用した事例 ・ ChatGPTでのAdobe Fireflyプロンプト作成方法
			実践	使い方レクチャー： ChatGPTは、指示出しが7割。実際に簡易的なプロンプトを作成 プロンプト実践： 同じプロンプトを異なる生成系AIで入力 (ChatGPT,Bard etc..) データ保護ワークショップ： 個人情報や機密データの取り扱い方法 倫理的なAI利用のケーススタディ： 問題発生時の対処法と改善策の検討 バイアスとディスクリミネーションの認識と対策： AIモデルにおけるバイアスの原因と影響 文書自動生成ワークショップ： 報告書、議事録、日報の効率化を行う 提案書、企画書などの自動作成ワークショップ： 提案資料や、イベント企画などの資料を自動生成する コンテンツ作成のワークショップ： コピー、ブログ記事などをChatGPT活用して作成する 情報収集・分析業務効率化のワークショップ： スプレッドシートにGPTを連携し、計算させる ChatGPTでマクロ (GAS)： ChatGPTでマクロを出力して、スプレッドシートで簡易的な処理をさせる ChatGPT Plugins実践： いくつかのPluginsを使用してみる Pluginの組み合わせ応用： 複数のPluginを組み合わせて検索から分析を行う Link Readerを使った顧客分析： 特定の顧客のWebページや資料をもとに、事前調査を行う コンテンツ設計とデザイン方針実践： ChatGPTでコンテンツ設計とデザイン方針を決める コンテンツ案やデザイン案実践： 実際の業務利用を想定としたコンテンツ案や、デザイン案をChatGPTをディスカッションして決める Adobe Fireflyで画像を生成する： 基本的な利用方法を学ぶ 各種機能を理解して実践してみる： Text to Image、Text effects、Recolor vectors、Generative fill